

市政に関する

一般質問の概要

3月14日、15日に議員20名が市の考えをたしました。主な質問、答弁の要旨を紹介しします。

「道の駅」市の役割と今後の展開は？



海友ク 市川 敏彦

問：平成17年12月の定例会で、地域の特性に合った地域密着型の直売所の道の駅の候補地として中野地区を―との行政の考え方について答弁いただきましたが、行政としてどの時点で地域に入っていく、どのような役割を果たすのか。また、運営方法や施設の規模について市の考え方を伺います。

答（市長）：市としては、農業を行う環境や立地条件に適している中野、中河内、本郷地区をはじめとする南部地域で都市型農業が盛んに行われていることから、この地域に農業の拠点として直売所を含む農業に関する複合施設を考えています。

行政市民の協働で市全体の防災訓練を！



海友ク 森田 完一

問：自治会、町内会、その他の団体などで防災訓練を実施していますが、日頃からの行政と市民の協働のための訓練を、実際にお互いが確認するために行う必要があると思います。

以前、市全体での防災訓練が行われていましたが、現在は中止されています。ぜひ内容、形を変えて、行政と地域関連団体、ボランティアを含め、一堂に会してお互いの持ち場と協力方を

救急隊員の増員と中学校でAED講習を



市政ク 矢野 瞬

問：本市の救急出場件数は年々増加しています。現在救急車は本署・北・南の各分署の3台で対応しているとのことですが、十分対応できているのか、救急隊員を増やす考えがあるのか伺います。

答（市長）：現在救急隊を増やす方向で検討しています。また、平成17年度中に救急搬送した方のうち約半数が軽症者だったとの報告があり、市民の方々が安

問：市では、急病人が心肺停止などに至った場合、その場で電気ショックにより心肺停止を防ぎ、蘇生することができるとAED（自動体外式除細動器）を各コミセン、公共施設等21カ所に設置してありますが、今後小中学校にAEDを設置し、先生や生徒にも受講の機会を与えてはどうでしょうか。

答（教育長）：中学校においては、運動部活動の対応も考慮して、平成17年度中に市内6中学校へAEDを設置しようと考えています。

中学校における35人学級の実現を！



共産党 白神多恵子

問：思春期の中にあつて、勉強のこと、将来のこと、友達のことなど不安や悩みを抱えている子どもたちに、学級人数が少ないほど一人の生徒に対して、より多くの話しかけや助言をしてあげることができま

答（教育長）：小学校で実施している少人数学級研究の成果を踏まえ、県教育委員会に対し、中学校でも少人数学級研究としての定数の活用と少人数学級を標準定数に加えていただくよう強く要望しているところ

答（教育総務部専任参事）：中学校の少人数学級研究について、まだ県は認めていません。各学校は現在措置されている12名の少人数指導、チームティーチング加配を有効に活用し、日々の授業の中で生徒に応じた指導の充実がなされています。



自治会と共同で備蓄倉庫の点検も…

執行役員制度の導入を！



海友ク 渡部 美恵

問：現在の最高経営会議は各部の部長が自分の担当する一所管の実務者として参加しており、この立場のまま経営の最高決定機関である会議に参加することに無理を感じます。なぜならば、所管以外の案件については、現状の実務を抱えたままでは把握することが不可能であり、結果、責任を持てない立場にあるからです。このような視点から、経営と実務を分けた執行役員制の導入を提案します。

答（市長）：現在市の政策決定については、次長と政策スタッフで構成する政策会議で審議し、部長以上で構成する最高経営会議で最終決定をしています。また、

余裕教室の地域への開放について



公明党 鈴木 輝男

問：少子化に伴い、学校の教室は余ってきており、これを地域に開放し、地域住民が利用できるようにすることは、地域活動の活性化によって不足する各種施設の機能を補うものとして、ぜひとも必要と思っています。教育委員会は、

答（教育長）：平成18年度は、3校で地域開放を行い、公民館やコミセンなどで活動の場を確保できない団体に生涯学習施設の補完的な施設として利用されることを想定しています。今後の目標や方向性は、基本的に市域に偏りなく配置をしたいと考えていますが、利用状況や市民の声を聞きながら開放学校数の増の必要性を検証し、設定していく予定です。



連日にぎわう直売コーナー

答（市長）：現在救急隊を増やす方向で検討しています。また、平成17年度中に救急搬送した方のうち約半数が軽症者だったとの報告があり、市民の方々が安

答（消防長）：現在、3隊で足りない場合は、消防隊が予備隊を編成して対応しています。また、平成22年のさがみ縦貫道路の開通に伴い、救急件数の増加が見込まれるため、1隊増や

答（教育長）：中学校においては、運動部活動の対応も考慮して、平成17年度中に市内6中学校へAEDを設置しようと考えています。

答（教育長）：小学校で実施している少人数学級研究の成果を踏まえ、県教育委員会に対し、中学校でも少人数学級研究としての定数の活用と少人数学級を標準定数に加えていただくよう強く要望しているところ

答（教育総務部専任参事）：中学校の少人数学級研究について、まだ県は認めていません。各学校は現在措置されている12名の少人数指導、チームティーチング加配を有効に活用し、日々の授業の中で生徒に応じた指導の充実がなされています。



中学校では公開講座も実施